

公衆衛生看護学実習の学びの特徴 ：実習報告会テーマのテキストマイニング分析を通して

小田美紀子, 吾郷美奈恵, 落合のり子,
小川 智子, 祝原あゆみ

概 要

今後の実習指導に活かすために、公衆衛生看護学実習における学びの特徴を明らかにすることを目的に、2005年度以降15年間に学生が実習報告会で報告した107テーマをテキスト分析ソフトKHCoder (Ver) 3.0を用いて分析した。その結果、総抽出語数は1,205語であり、出現回数が3回以上の語は、42語あり、上位5位で最も多かったのは、「保健」90回、次いで「活動」37回、「健康」35回、「役割」33回、「住民」23回の順であった。学生の学びの特徴として以下のことが明らかとなった。1. 抽出語上位10位までの語句と共起ネットワーク、特徴語の分析から、学生は、保健活動や健康づくりについて、主に母子保健や介護予防の活動をとおして、保健師・住民等の役割を学んでいた。2. 2010年度以降は、「保健師に必要とされる力量」や「保健師の専門性」「住民主体」に注目した報告会テーマが多くなっていた。3. 実習年代別の報告会テーマの特徴語から、実習目的が報告会テーマに反映されており、学生は、実習目的を意識しながら実習を行うことが出来ていた。4. 実習機関の圏域別の特徴語から、学生は、圏域の地域特性をよく捉え、報告会テーマに取り上げ学びを深めることが出来ていた。以上のことから、引き続き、実習目的や地域特性に応じた実習報告会のテーマ設定ができるように実習指導者及び教員による指導が重要であると考えた。

キーワード：公衆衛生看護学実習, 報告会テーマ, 学び, テキストマイニング

I. はじめに

近年、少子・高齢化の進行、貧困の問題や虐待の増加、地域のつながりの希薄化、自然災害の多発、感染症の蔓延など、社会を取り巻く環境は大きく変化し、保健師が抱える事例は多様化、複雑化、深刻化してきている。保健師は、

いつの時代においても保健・医療の専門職として地域の実情・ヘルスニーズを把握し対応することが期待されている。

保健師教育は、1996年以降看護基礎教育が大学教育化した影響を受け、専門学校や短期大学専攻科での養成から4年制大学の学部での全員必修の保健師・看護師の統合カリキュラムの教育体制が主流となった。しかし、統合カリキュラムによる保健師教育の質の低下が指摘されるようになった^{1),2)}。その後、2009年の保健師助

産師看護師法の一部改正により、教育期間が6か月以上から1年以上に延長されことや2011年の保健師助産師看護師学校養成所指定規則（以下、指定規則）の第5次改正により、保健師教育課程の総単位数が5単位増の28単位以上になったことをうけ、2012年度以降、4年制大学において保健師選択制を導入する大学が増加した。また、大学院教育も増え始めている。今後2022年度から開始される指定規則の改正では、保健師教育課程の総単位数がさらに3単位増え31単位となり、健康課題への継続的な支援と社会資源の活用等の実践や施策化に対する能力強化が期待されている。

保健師教育における臨地実習は、多様化、複雑化、深刻化している事例に対応可能な実践能力の基礎を身につける上で極めて重要である。2011年の指定規則改正により、保健師の臨地実習は4単位から5単位に増加した。本学は、1998年に開設した島根県立大学看護短期大学専攻科：地域看護学専攻1年課程の養成を開始した当初から、大学周辺をフィールドとした実習2単位と県内の保健所・市町村をフィールドとした公衆衛生看護学実習3単位、計5単位の实習を行い、2012年に開設した島根県立大学看護学部（現島根県立大学看護栄養学部）の選択制の保健師養成においても同じように行っている。

公衆衛生看護学実習は、本学では保健師教育における最終の実習であり、既修科目の学びをこの実習で体験により深める重要な実習である。実習における学びについては、2004年度までは、個人の学びを報告する方法であったが、2005年度からは、保健所管内（以下、圏域とす）ごとに報告会テーマを設定し実習報告会の場で学びを共有してきている。

本稿の目的は、公衆衛生看護学実習報告会の学生の報告テーマを分析することにより、実習における学びの特徴を明らかにすることである。これにより、今後の実習指導に活かすことができると思われる。

Ⅱ. 本学の公衆衛生看護学実習の概要（2005年度～2019年度）

1. 実習単位・時間：3単位，135時間（3週間）
2. 実習期間：4年次10月2週目から4週目
3. 実習機関：島根県内の保健所（1週間）および管内市町村（2週間）
4. 学生配置：1市町村2～4名，1保健所4～6名
5. 実習目的

1) 2005年度から2008年度

保健・医療・福祉の総合的な地域看護をとおして、地域看護機能を理解する。また、実習地で計画されている保健福祉活動に参加し、活動の展開とその特徴について考察する。

2) 2009年度から2019年度

実習地における住民、行政および専門職の協働活動に参加することにより、保健師に必要とされる力量や機能を理解し、保健師の専門性について認識する。

6. 実習内容と方法

1) 実習前

実習地の地域診断を行い、実習地の健康課題と自己学習課題を明らかにする。地域診断、自己学習課題については、実習1か月前に行う連絡会議にて実習指導者から直接助言を得て、必要時加筆・修正を行う。連絡会議後に実習市町村の概要についてまとめる（実習中に加筆・修正を行う）。

2) 実習中

保健所・市町村それぞれからオリエンテーションを受け、保健医療福祉活動の体験や保健師の力量を高めるための取組等に参加する。学生主体で中間・最終カンファレンスの企画・実施を行う。

3) 実習後

実習報告会を実施する。実習報告会は、大学内で学生・実習指導者・教員の参加により実施する。報告会の目的は、学びを共有し、実習後の新たな学習課題を明らかにすることである。学生は、実習中から報告会テーマを考え、主体的に学びを深め、実習後2週間で報告会テーマについてまとめ報告する。

Ⅲ. 研究方法

1. 研究対象

公衆衛生看護学実習の実習指導者、教員、学生に配布し、公開された“地域看護学実習報告会抄録集”および“公衆衛生看護学実習報告会抄録集”に記載されている報告会テーマを研究対象とした。報告会を圏域ごとにテーマ設定して行い始めた2005年度～2019年度の15年間の報告会テーマで2005・2006年度松江圏域が2市別々の報告会テーマを設定しているものを含め107テーマを研究対象とした。なお、公衆衛生看護学実習は、2011年の指定規則改正により「地域看護学」が「公衆衛生看護学」に変更になった際に実習名を変更している。

2. 分析方法

実習報告会抄録集から報告会テーマをデータとして入力し、「公衆衛生看護学実習における」や「〇〇圏域における」等の地名は、内容に影響しない範囲で削除した。分析は、テキスト分析ソフトKHCoder (Ver) .3.0³⁾により、代名詞以外のすべての品詞を対象とし、抽出語の出現回数、抽出語の共起ネットワークを作成した。さらに、5年ごとの特徴を把握するため、実習年代を2005年～2009年度、2010年～2014年度、2015年～2019年度に分類し、特徴語の抽出を行った。また、圏域による特徴を把握するため、7圏域に分類し、特徴語の抽出と抽出後の対応分析を行った。

Ⅳ. 結果

2005年度から2019年度の実習報告会で報告した107テーマを分析した結果、総抽出語数1,205語であった。出現回数が3回以上の語を表1に示した。出現回数3回以上は、42語あり、上位5位で最も多かったのは、「保健」90回、次いで「活動」37回、「健康」35回、「役割」33回、「住民」23回の順であった。

出現回数3回以上の語句の共起ネットワークを図1に示した。強い共起関係ほど太い線で示し、出現回数の多い語句を大きな円で示している。出現回数の最も多い「保健」から「働」「連

携」「必要」「力」以外は、つながりがみられた。

実習年代別実習報告会テーマの特徴語上位10語 (Jaccard 係数) を表2に示した。Jaccard 係数は、0から1までの値を示し、関連が強いほど1に近づく。表2の場合、リストアップされている語は、データ全体に比して、各年代において特に高い確率で出現している語であり、単なる頻出語ではなく、各年代を特徴づける語である。後に記載している表4についての解釈も同じである。2005年度から2009年度の特徴語は、上位から「予防」「母子」(0.17), 「介護」(0.12), 「対策」(0.10), 「取り組み」「事業」「特性」「特徴」(0.08), 「目指す」「子育て」(0.06)の順であった。2010年度から2014年度の特徴語は、上位から「保健」(0.33), 「活動」「役割」(0.30), 「健康」(0.18), 「住民」(0.16), 「地域」(0.14), 「専門」「母子」「特徴」(0.13), 「主体」(0.12)の順であった。2015年度から2019年度の特徴語は、上位から「保健」(0.30), 「住民」(0.27), 「健康」(0.20), 「支える」(0.18), 「地域」(0.15), 「力」(0.14), 「主体」(0.10), 「行う」「必要」「働」(0.07)の順であった。

学びの特徴が具体的に理解できるように、実習年代別に特徴語が使用されている代表的な報告会テーマを表3に示した。

圏域別実習報告会テーマの特徴語上位10語 (Jaccard 係数) を表4に示した。圏域別の上位3位までをみると、松江圏域は、「役割」(0.17),

表1 実習報告会テーマの抽出語と出現回数

抽出語	回数	抽出語	回数	抽出語	回数
保健	90	介護	8	働	4
活動	37	専門	7	福祉	4
健康	35	対策	7	連携	4
役割	33	学ぶ	6	医療	3
住民	23	高齢	6	求める	3
地域	20	生涯	6	行う	3
母子	16	力	6	習慣	3
予防	14	活かす	5	壮年	3
支援	11	取り組み	5	中山	3
主体	11	生活	5	通す	3
支える	9	中心	5	島	3
事業	9	課題	4	必要	3
特性	9	関わり	4	暮らす	3
特徴	9	子育て	4	目指す	3

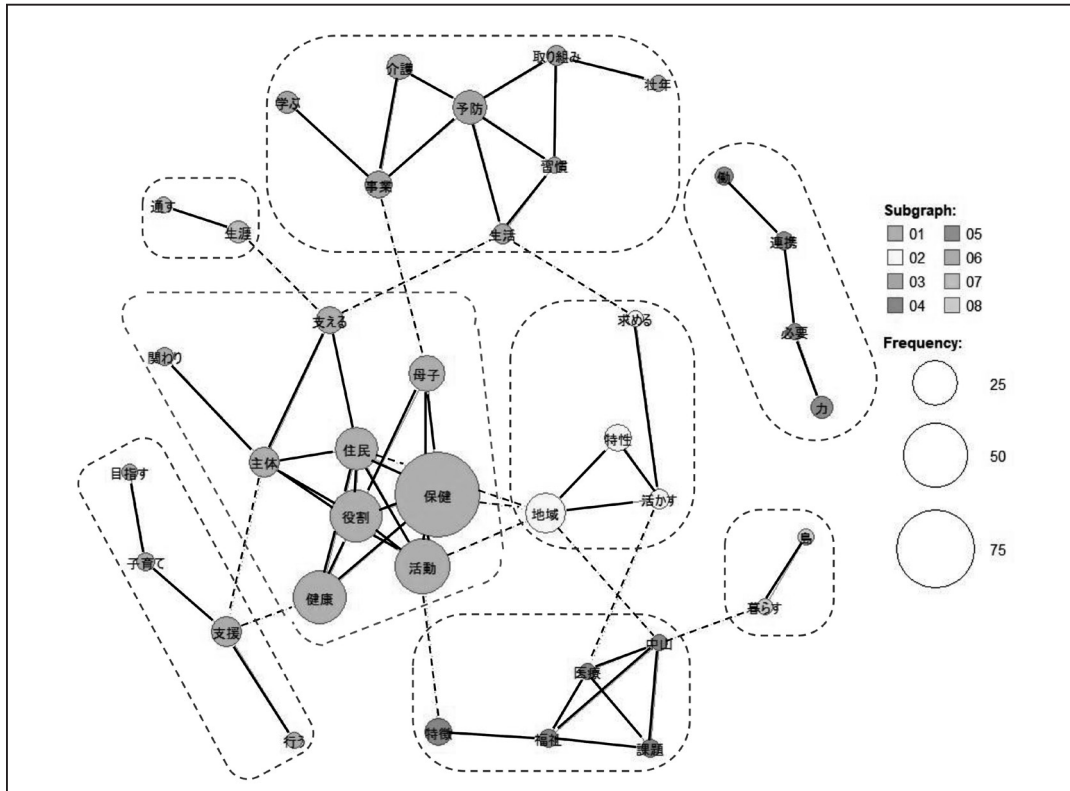


図1 出現回数3回以上の語句の共起ネットワーク

注) 本来、共起ネットワーク図は円の色でグループ化が示されているが、今回は補助線を加筆することでグループ化を示した。

表2 実習年代別 実習報告会テーマの特徴語

特徴語	2005～2009年度		2010～2014年度		2015～2019年度	
	Jaccard 係数	特徴語	Jaccard 係数	特徴語	Jaccard 係数	特徴語
予防	0.17	保健	0.33	保健	0.30	住民
母子	0.17	活動	0.30	住民	0.27	健康
介護	0.12	役割	0.30	健康	0.20	支える
対策	0.10	健康	0.18	支える	0.18	地域
取り組み	0.08	住民	0.16	地域	0.15	力
事業	0.08	地域	0.14	力	0.14	主体
特性	0.08	専門	0.13	主体	0.10	行う
特徴	0.08	母子	0.13	行う	0.07	必要
目指す	0.06	特徴	0.13	必要	0.07	働
子育て	0.06	主体	0.12	働	0.07	

表3 実習年代別 代表的な実習報告会テーマ

年代	特徴語	実習報告会テーマ
	予防	壮年期(中年期)に対する脳卒中 予防 の取り組み
2005	母子	母子 保健活動における保健師の役割
05	介護	介護 予防における一般高齢者施策について
5	対策	生活習慣病 予防対策
5	取り組み	精神保健・母子保健の 取り組み
2009	事業	いきいき介護予防～ 事業 から学ぶ保健師の役割
09	特性	地域 特性 を活かした保健・医療・福祉活動からの学び
9	特徴	保健・医療・福祉活動の 特徴
年度	目指す	生涯を通じたこころの健康づくり～まめなこころを 目指して ～
	子育て	子育て 支援体制
	保健	中山間地域における 保健 医療福祉の課題
2010	活動	保健 活動 から見てきた保健師の役割
01	役割	保健師の 役割
00	健康	こころの 健康 づくりについて
5	住民	島で暮らす 住民 を支える保健師活動
2010	地域	地域 特性を活かした保健師活動
01	専門	保健師の 専門 性
4	母子	母子 保健事業から保健師が取り組む地域づくり
年度	特徴	特徴 ある活動から学んだ保健師の役割
	主体	住民 主体 の活動を支援する保健師の関わり
	保健	健康づくりに必要な 保健 師の「みる」「つなぐ」「動かす」
2011	住民	住民 が主人公になる健康づくり～保健師が担う役割とは～
01	健康	生涯にわたる 健康 づくりを支える保健師の役割
5	支える	地域住民を 支える 保健師の役割
5	地域	住民主体で健康な 地域 づくりを進めるための保健師の関わり
2010	力	関わりの中で発揮される保健師の「 力 」
01	主体	住民 主体 の健康づくり活動を支える保健師の役割
9	行う	住民組織と共に 行う 健康づくり
年度	必要	連携における保健師に 必要 な力
	働	地域特性と連携・ 協働

表 4 圏域別 実習報告会テーマの特徴語

特徴語	松江		雲南		出雲		大田		浜田		益田		隠岐	
	特徴語	Jaccard 係数	特徴語	Jaccard 係数	特徴語	Jaccard 係数	特徴語	Jaccard 係数	特徴語	Jaccard 係数	特徴語	Jaccard 係数	特徴語	Jaccard 係数
役割	0.17	健康	0.17	保健	0.16	生涯	0.14	予防	0.16	活動	0.17	活動	0.20	
住民	0.16	中山	0.10	生涯	0.15	対策	0.14	専門	0.16	支援	0.16	島	0.18	
主体	0.14	高齢	0.08	活動	0.15	母子	0.13	脳卒中	0.13	役割	0.16	介護	0.14	
地域	0.14	特徴	0.07	母子	0.14	健康	0.13	壮年	0.13	保健	0.14	離島	0.12	
事業	0.11	TSUNAGU	0.05	役割	0.14	特徴	0.13	保健	0.12	地域	0.12	暮らす	0.11	
取り組む	0.10	うつ病	0.05	地域	0.12	中心	0.10	働	0.12	主体	0.12	予防	0.11	
母子	0.09	システム	0.05	支援	0.12	高齢	0.09	健康	0.11	住民	0.11	福祉	0.11	
課題	0.09	ライフ	0.05	糖尿	0.12	専門	0.09	取り組み	0.11	心	0.11	取り組み	0.10	
力	0.08	ライフサイクル	0.05	予防	0.11	事業	0.08	学ぶ	0.11	体制	0.11	住民	0.10	
介護	0.07	見える	0.05	健康	0.11	あり方	0.06	役割	0.09	求める	0.11	支える	0.08	

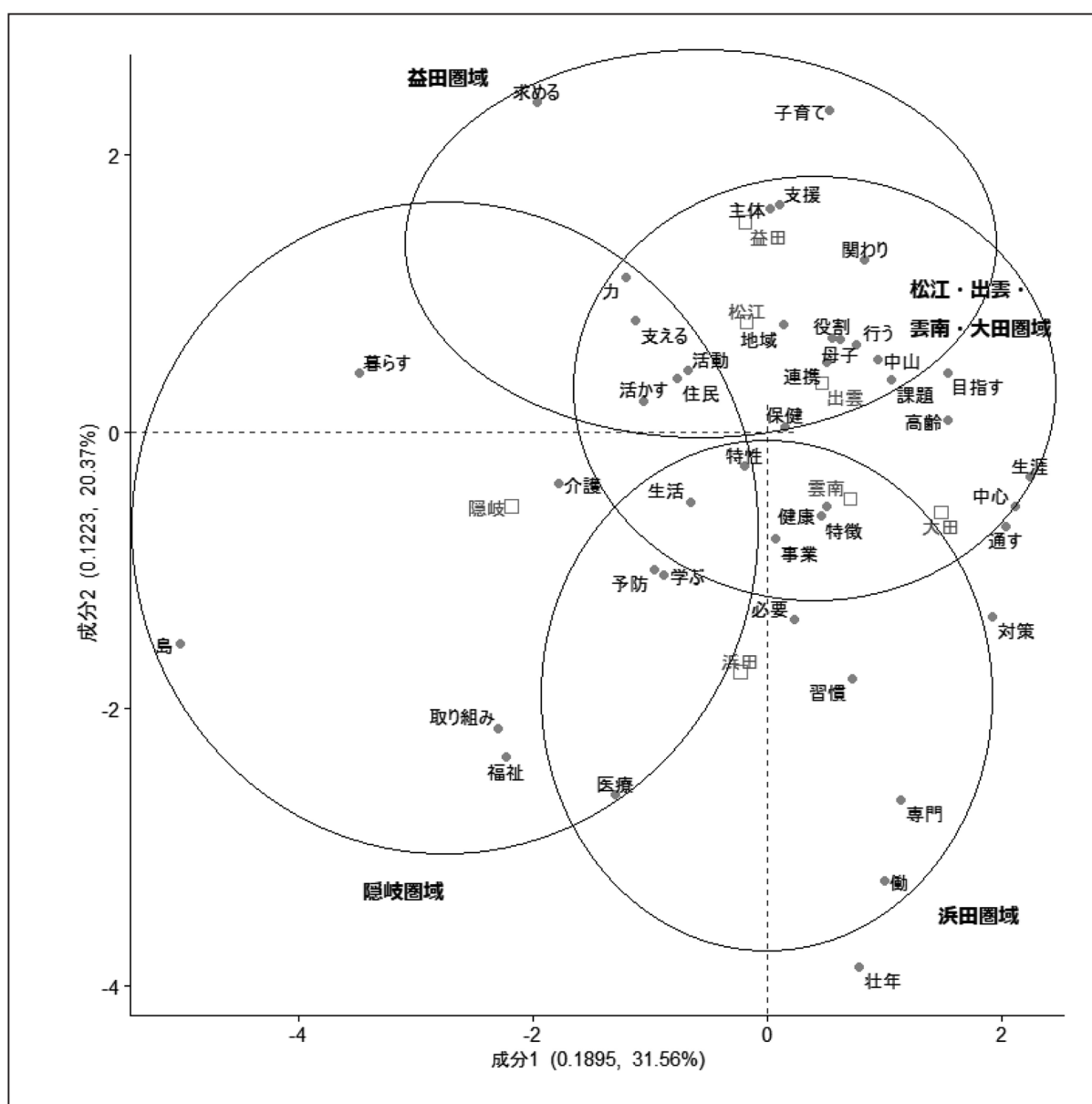


図 2 圏域別実習報告会テーマの抽出語の対応分析結果

「住民」(0.16), 「主体」「地域」(0.14), 雲南圏域は, 「健康」(0.17), 「中山」(0.10), 「高齢」(0.08), 出雲圏域は, 「保健」(0.16), 「生涯」「活動」(0.15), 「母子」「役割」(0.14), 大田圏域は, 「生涯」「対策」(0.14), 「母子」「健康」「特徴」(0.13), 「中心」(0.10), 浜田圏域は, 「予防」「専門」(0.16), 「脳卒中」「壮年」(0.13), 「保健」「働」(0.12), 益田圏域は, 「活動」(0.17), 「支援」「役割」(0.16), 「保健」(0.12), 隠岐圏域は, 「活動」(0.20), 「島」(0.18), 「介護」(0.14) の順であった。

圏域別実習報告会テーマの抽出語の対応分析結果を図2に示した。成分の説明率は, 成分1が31.56%, 成分2が20.37%となった。抽出語は大きく4つの領域にまとまりがみられる。原点に近いところが, 松江・雲南・出雲・大田圏域であり, 原点から離れた特徴的な語句を使用しているのが浜田・益田・隠岐圏域であった。

V. 考 察

公衆衛生看護学実習の報告会テーマの抽出語上位10位までの語句「保健」「活動」「健康」「役割」「住民」「地域」「母子」「予防」「支援」「主体」と共起ネットワークをみると, 学生は, 保健活動や健康づくりについて, 主に母子保健活動をとおして, 予防の取組みや保健師・住民等の役割を学び報告会テーマに取り上げて報告していると言える。

実習年代別の特徴語をみると2005年度から2009年度は「予防」が1位, 「母子」が2位, 「介護」が3位であった。2010年度から2014年度は「母子」は6位であったが, 2015年度から2019年度は「予防」や「母子」「介護」は特徴語として出現していなかった。これは, 実習目的が, 2005年度から2008年度までは, 「保健・医療・福祉の総合的な地域看護をとおして, 地域看護機能を理解する。また, 実習地で計画されている保健福祉活動に参加し, 活動の展開とその特徴について考察する」となっていることから, 保健福祉活動として, 介護予防や母子保健などの活動を報告会テーマに取り上げてきた経緯があると考えられる。2009年度から2019年度の実習目的は, 「実習地における住民, 行政お

よび専門職の協働活動に参加することにより, 保健師に必要とされる力量や機能を理解し, 保健師の専門性について認識する」であり, 2010年度以降は, 特徴語の1位に「保健」, 2010年度から2014年度は「専門」が7位, 2015年度から2019年度は「力」が6位, 「必要」が9位に出現している。このことから, 学生は実習目的を考え, 「保健師に必要とされる力量」や「保健師の専門性」に注目した報告会テーマになってきたと考えられる。また, 実習目的に住民との協働活動についても記載されていることから, 2010年度以降は「住民」が特徴語として出現している。さらに「主体」が特徴語として出現しているのは, 住民主体を考えた報告会テーマが設定されてきたためと考えられる。以上から, 学生は, 実習の目的を意識しながら実習を行い, 実習目的が報告会テーマに反映されていると考えられる。

次に, 圏域別の特徴語をみると「中山(間)」「島」「離島」という地理的な特徴や「うつ病」「糖尿」「脳卒中」という疾病の特徴がみられる。事前学習として地域診断を行っていることもあり, 学生は圏域の特徴をよく把握し, 報告会テーマに反映させていると考えられる。「うつ病」は雲南圏域の特徴語に出現している。主要死因の年齢調整死亡率(人口10万対)の2011年~2015年の平均をみると, 雲南圏域は, 男性の自殺が46.5と県内で最も高い⁴⁾。自殺の原因として「うつ病」が考えられる。また, 「脳卒中」は浜田圏域の特徴語に出現している。主要死因の年齢調整死亡率(人口10万対)の2011年~2015年の平均をみると, 浜田圏域は, 脳血管疾患が男性51.8, 女性30.8と県内で最も高い⁴⁾。「糖尿」は出雲圏域の特徴語として出現している。2016年度の疾病別年齢調整有病率をみると出雲市の糖尿病は, 男性6.2%と県内で最も低く, 女性3.2%と県平均3.1%とはほぼ変わらない⁴⁾。出雲圏域で「糖尿」が特徴語として出現しているのは, 糖尿病の取組みに力を入れていることが考えられる。

島根県は東西に長く, 離島も有する県であり, 地域の特徴が強い県である。対応分析の図をみると, 島根県東部・中部にある松江・出雲・雲

南・大田圏域は、原点付近の特徴のない語句が多く出現しており、原点から離れた特徴のある語句は、島根県西部の浜田・益田圏域、離島の隠岐圏域に出現している。学生が県内に分散して実習を行うことにより、異なった地域特性をもつ保健師の活動を学び、報告会で学びを共有できることは島根県で実習する強みであると考えられる。

報告会テーマの設定は、実習期間中に行う中間・最終カンファレンスで実習指導者や教員の助言を得ることになっている。今回、報告会テーマを分析した結果、適切なテーマ設定が出来ていると考えられたため、報告会の場で、より地域特性に応じた学びを報告し合い共有できるように、また、実習目的が達成できるような報告会テーマ設定が行えるように、引き続き、指導を行っていくことが重要であると考えられる。

VI. 結 論

公衆衛生看護学実習の報告会テーマを分析した結果、学生の学びの特徴として以下のことが明らかとなった。

1. 抽出語上位 10 位までの語句と共起ネットワーク、特徴語の分析から、学生は、保健活動や健康づくりについて、主に母子保健や介護予防の活動をとおして、保健師・住民等の役割を学んでいた。
2. 2010 年度以降は、「保健師に必要とされる力量」や「保健師の専門性」「住民主体」に注目した報告会テーマが多くなっていた。
3. 実習年代別の報告会テーマの特徴語から、実習目的が報告会テーマに反映されており、学生は、実習目的を意識しながら実習を行うことが出来ていた。
4. 圏域別の特徴語から、学生は、圏域の地域特性をよく捉え、報告会テーマに取り上げ学びを深めることが出来ていた。

以上のことから、引き続き、実習目的や地域特性に応じた実習報告会のテーマ設定ができるように実習指導者及び教員による指導が重要であると考えた。

利益相反

本研究における利益相反はない。

謝 辞

公衆衛生看護学実習にご理解とご協力をいただいている島根県健康福祉部及び島根県内の保健所、市町村の皆様、また 2015 年度まで本学の保健師教育に尽力された島根県立大学名誉教授齋藤茂子先生、元島根県立大学准教授永江直美先生に深謝致します。

文 献

- 1) 平野かよ子, 池田信子, 金川克子, 他. 看護系大学, 短大専攻科, 専修学校別の保健師養成について 教員と学生の保健師活動の認識等の実態調査. 日本公衆衛生雑誌, 2005; 52(8): 746-755.
- 2) 麻原きよみ, 大森純子, 小林真朝, 他. 保健師教育機関卒業時における技術項目と到達度. 日本公衆衛生雑誌, 2010; 57(3): 184-194.
- 3) 樋口耕一. 社会調査のための計量テキスト分析 内容分析の継承と発展を目指して. 2018; 京都市: ナカニシヤ出版.
- 4) 島根県. 島根県保健医療計画. 2021.8.30
https://www.pref.shimane.lg.jp/medical/kenko/iryo/shimaneno_iryo/hokenniryoukeikaku/index.data/hokenniryoukeikaku_ikkatsu.pdf

**Characteristics of learning
in public health nursing practice
: Through text mining analysis of the theme
of the practice report meeting**

Mikiko ODA, Minae AGO, Noriko OCHIAI,
Tomoko OGAWA, Ayumi IWAIBARA

Key Words and Phrases : Public Health Nursing Practice,
Debriefed Themes,
Learning,
Text Mining

The University of Shimane